



搾油機を見学する生徒ら＝浜松市西区の村松製油所

オイスカ高生取材

浜松市西区のオイスカ国際文化コースの3年生18人が28日、同区の村松製油所と農業法人「じゅんちゃんファーム」で取材活動を行った。来年2月をめぐりに地元企業の魅力をブログやチラシなどにまとめ、市内外に発信する。

企業の魅力探り発信へ

西区の「古い機械 大事に活用」

生徒は4月から、一般教養科目の一環で、LPGガス販売のエネシン（中区）の協力を受けて取材の方法や記事の書き方などを学んでいる。この日は村松製油所と、同ファームに分かれて業務内容や仕事のやりがいなどを聞き取った。

村松製油所を訪ねた8人は、1950年から使われている搾油機や、工場に併設するレストランなどを見学した。「機械が壊れることはないか」「おすすめ料理は」などと従業員に尋ね、写真撮影したり、メモを取ったりした。川崎ひできさん（17）は「古い機械や建物が今も大事に使われ続けていることを伝えたいと思った」と話した。

（浜松総局・白本俊樹）

エネシン(株)の社員が講師をしている授業の一貫で、オイスカ高校の生徒が地元の企業取材しました。
高校生が企業と直接話をする場があることで、仕事について学生が考えるきっかけになると同時に、高校生が地元の企業の魅力を発信することで地域活性化に繋げることが出来る取り組みです。
随時更新される高校生の取材記事を載せたブログやチラシをぜひご覧ください！

令和3年(2021年)9月29日(水)

静岡新聞掲載

